2019年度　地域連携活動報告書

連携先名称：高知県

協定締結日：2016/10/20
活動状況：継続中
活動資金：自治体予算
担当教員（所属）：髙畑健（農学科）、篠原弘亮（農学科）
活動体制（単位）：個人

関連教員（所属）：
　1）髙畑健（農学科）、宮田正信（退職、非常勤講師）
　2）岩波徹、篠原弘亮、キムオッキョン（以上、農学科）

活動目的：
　1）学生に対して農家での体験的な農業研修のプログラムを参加させることで、地域との交流を通じて、大学と地域との連携活動を推進し、地域の発展と社会に貢献できる人材の育成を図ることである。
　2）研究交流として、カンキツ病害対策に関するディスカッションを行う。

活動内容・成果：
　1）2020年2月25日（火）から3月3日（火）の7泊8日で愛媛・高知での農業体験研修を行った。そのうち高知県での活動は、28日（金）から2日（月）であり、高知県立農業担い手育成センターにおける野菜栽培に関する実習、ファーマーズマーケット「とさのさと」の視察・見学、園芸流通センターの視察、野村農園（カンキツ‘小夏’農家）での収穫実習、高知県農業技術センターの視察・見学、日曜市の見学、西島園芸団地（観光農園）の視察・見学などを行った。参加学生数は21名、引率教員2名であった。実習や視察・見学のほかに、毎回体験したことに関して振り返りのミーティングを行い、学生一人ずつ、学んだこと、活動を通しての感想、ここでの経験を今後どのように生かしていくのか、などの発表もさせた。また、その日の活動内容におけるレポートも毎日課した。
　参加した学生からは、「農業に対する考え方が変わった」、「農業に関わる仕事をしたい気持ちがより一層強まった」、「視野を広げることが出来た」、「もっと早い時期からこのようなプログラムに参加すれば良かった」、「今後の学生生活の励みになった」などの声を得るなど、学生の活動幅の広がり、学生のレポートの質および発表能力の向上、相手を思いやる心の涵養、主体的・自発的行動力の獲

得などの成果が確認できた。つまり、この活動は「学生の成長に貢献した」といえる。

２）高知県農業技術センター果樹試験場と農学科植物病理学研究室とでカンキツ類のウイルス病害に関して、情報交換等を密に実施、今後の共同研究などに向けた検討を重ねている。具体的には、８月１９、２０日に植物病理学研究室教授　岩波　徹と同　大学院博士前期課程２年　桑原里歩が果樹試験場に赴き、カンキツ類のウイルス病害研究に関する打合せ、９月３０日から１０月４日に果樹試験場　研究員　杉本達哉氏が、植物病理学研究室を訪れカンキツ類の病原ウイルスの検出と研究打合せ、さらに２月３日に果樹試験場　チーフ　小原敬弘氏と研究員　杉本達哉氏が、植物病理学研究室を訪れカンキツ類のウイルス病害の研究打合せを実施した。

課題・改善点：

１）

・プログラムへの参加者数を増やすための告知方法

参加学生と非参加学生との間には、意欲や意識、社会性などに大きな差異が生じることが認められていることから、多くの学生への参加誘導を図ることが望ましい。プログラム参加者の動機は、参加経験のある学生からの口コミによることが多いことが分かった。またポータル発信による効果もあった。しかし、学生が先ず第一歩を踏み出しやすくするための機会や仕組みの再構築、本プログラムの告知方法の再検討も必要である。

・教職員の意識の共有

学生が本活動に参加するきっかけは友達に誘われることにもよるが、就農支援に関係している教員からの勧めや誘導によるものも現実には多い。しかしながら、学外現場での活動の重要性や効果についての教職員の理解が充分とは言えないのが現状である。そこで、シンポジウムを積極的に行ってきているものの、それに参加意欲のある教職員の数は少ない。そのため、大学全体で告知していく必要があることに加え、教職員にも現場での学びの実態を理解してもらうための手法やシステムの構築などが必要である。

２）特になし。